

がん診療連携拠点病院等の指定に係る推薦について

がん診療連携拠点病院等については、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、がん医療の均てん化を目指し、整備が進められてきたところである。今般、国において「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」(平成30年7月31日付け健発0731第1号厚生労働省健康局長通知の別添、以下「新指針」という)が新たに定められ、指定要件の見直しが図られた。

平成31年4月以降の指定更新を受けるため、新指針に基づく指定要件を充足していることを確認し、平成30年12月に県から国へ指定に係る推薦を行った。

平成31年3月7日にがん診療連携拠点病院等の指定に関する検討会が開催され、本県の推薦した全機関について、了承が得られた。

【スケジュール】

	月日	内容
平成30年	7月31日	(国)「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」通知
	8月8日	(県)指定に関する意向調査
	10月9日	(国)がん診療連携拠点病院等の指定の推薦手続きについて通知
	10月9日	(県)現況報告書の提出依頼(10月31日まで)
	12月12日	県の「指定推薦書」・各病院の「現況報告書」の国への提出締め切り
平成31年	3月7日	(国)がん診療連携拠点病院等の指定に関する検討会
	4月1日～	指定期間開始(指定期間:4年間又は1年間※) ※新指針で厳格化された人的要件を満たしていない場合、1年間の指定更新を行う。

がん診療連携拠点病院等の指定推薦申請状況

【都道府県がん診療連携拠点病院】

病院名	4年更新	1年更新 (人的以外)	新規
千葉県がんセンター	○		

【地域がん診療連携拠点病院】

二次医療圏名	人口規模 * H30.10.1 毎月常住人口	面積 km ²	病院名	4年更新	1年更新 (人的以外)	新規
千葉	977,247	271.77	千葉大学医学部附属病院	○		
			千葉医療センター		○	
東葛南部	1,777,383	253.91	船橋市立医療センター	○		
			東京歯科大学市川総合病院		○	
			順天堂大学医学部附属浦安病院		○	
東葛北部	1,388,064	358.14	松戸市立総合医療センター		○	
			東京慈恵会医科大学附属柏病院	○		
印旛	716,195	691.66	日本医科大学千葉北総病院	○		
香取海匝	269,088	717.47	旭中央病院	○		
山武長生夷隅	420,642	1,161.75				
安房	123,153	576.53	亀田総合病院		○	
君津	325,360	758.22	君津中央病院	○		
市原	271,453	368.17	千葉労災病院		○	
合計	6,268,585	5157.62				

【地域がん診療病院】

二次医療圏名	人口規模 * H30.10.1 毎月常住人口	面積 km ²	病院名	4年更新	1年更新 (人的以外)	新規
山武長生夷隅	420,642	1,161.75	さんむ医療センター (グループ指定先: 千葉県がんセンター、旭中央病院)		○	

がん診療連携拠点病院等推薦意見書【千葉県】

1 千葉県の現状

千葉県は、平成 22 年から 37 年までの 65 歳以上人口の増加率は全国第 3 位、75 歳以上人口の増加率は第 2 位のスピードで増加することが見込まれています。

本県の悪性新生物（がん）による死亡者数は、昭和 57 年以来死亡順位の第 1 位であり、平成 29 年のがん死亡者数は 17, 222 人と、全死亡者数の約 3 割を占めています。

急速な高齢化が進行している本県では、今後さらになん患者が増加していくと見込まれ、がん対策の取組は重要な課題となっています。

2 千葉県のがん医療提供体制

(1) がん診療連携拠点病院等の位置付け

「千葉県保健医療計画」では、「循環型地域医療連携システム」構築のため、がん医療分野の中核的機関としてがん診療連携拠点病院等を位置付けております。

全ての県民に質の高いがん医療へのアクセスを確保するため、平成 20 年度策定の「千葉県がん対策推進計画」より、二次医療圏に 1 ヲ所を基本に、一定人口規模（概ね人口 50 万人程度）を単位に、がん診療連携拠点病院等を設置することを基本方針とし、がん診療連携拠点病院等の整備を進めてきました。

併せて、本県独自の取組としては、都道府県がん診療連携拠点病院として指定を受けている千葉県がんセンターに加えて、特定機能病院である千葉大学医学部附属病院、高度先進的ながん医療を提供する国立がん研究センター東病院と放射線医学総合研究所病院の 4 病院を、「全県（複数圏域）対応型がん診療連携拠点」として、また、がん診療連携拠点病院等を補完する医療機関を「千葉県がん診療連携協力病院」として位置付け、ネットワークの構築及びがん医療水準の向上・均てん化に取り組んでいます。

(2) がん診療連携拠点病院等の整備状況

都道府県がん診療連携拠点病院である千葉県がんセンターは、県内で中心的な役割を果たし、専門的ながん医療を提供するとともに、県内のがん診療の連携協力体制の整備やがんに関する相談支援情報の提供を担っています。

また、本県は 9 の二次医療圏で構成され、8 の二次医療圏において 12 の地域がん診療連携拠点病院が指定され、山武長生夷隅医療圏において 1 の地域がん診療病

院があり、各病院は、地域のがん医療の拠点として、自ら専門的な医療を行うとともに、各部位のがん対応医療機関やかかりつけ医等との連携、医療従事者の研修、相談支援等の役割を担っています。

3 地域連携に関する基本的な考え方

(1) 循環型地域医療連携システムの構築

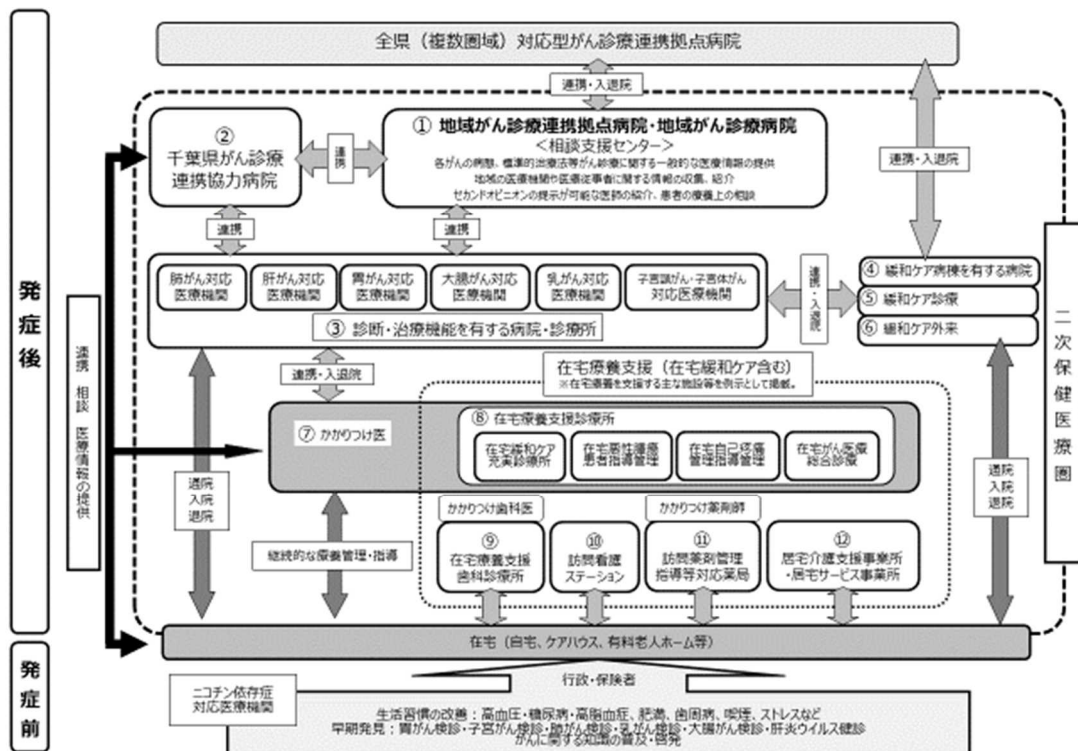
「千葉県保健医療計画」の中で、本県が目指す「循環型地域医療連携システム」構築におけるがん医療分野の中核的機関として、がん診療連携拠点病院を位置付けています。

この「循環型地域医療連携システム」による連携を円滑に進めるためのツールとして、全県共用型の地域連携パスである「千葉県共用地域医療連携パス（例示モデル）」を千葉県医師会、関係病院等と協働して作成し、運用しています。

がんの千葉県共用地域医療連携パスについては、がん診療連携拠点病院と千葉県がん診療連携協力病院が参加する千葉県がん診療連携協議会の地域連携クリティカルパス・臓器別腫瘍専門部会において、胃がん、大腸がん、肺がん、肝がん、乳がん、子宮がん、前立腺がんの7つの部会で作成をしています。

【がんの循環型地域医療連携システム】

がんの循環型地域医療連携システムのイメージ図

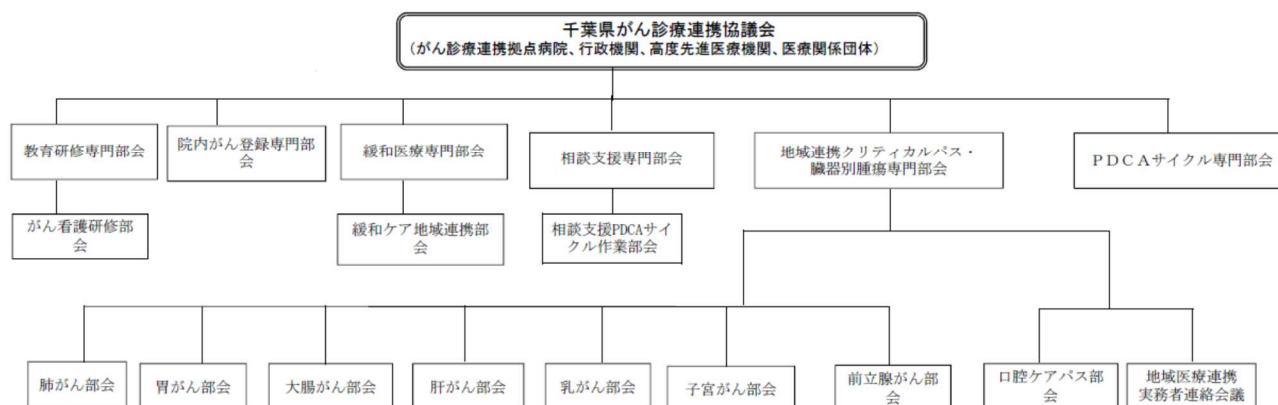


(2) がん診療連携拠点病院間の連携

がん診療連携拠点病院は、都道府県がん診療連携拠点病院である千葉県がんセンターが中心となり、地域がん診療連携拠点病院のほか、国立がんセンター研究センター東病院、放射線医学総合研究所、医師会等をメンバーとして加え、がん診療連携協議会を設置しています。平成30年度から千葉県こども病院もメンバーに参加したところです。

協議会は、教育研修専門部会、院内がん登録専門部会、相談支援専門部会、緩和医療専門部会、地域連携クリティカルパス・臓器別腫瘍専門部会及びPDCAサイクル専門部会の6つの専門部会で組織されています。また、その専門部会の中にも下記のように部会を設置し、連携を図っています。

千葉県における「都道府県がん診療連携協議会」の体制



4 がん診療連携拠点病院等の推薦について

千葉県としては、今後の人口の高齢化予測を踏まえると、現状のがん診療連携拠点病院の確保は必須であると考えています。

既指定病院である都道府県がん診療連携拠点病院1病院、地域がん診療連携拠点病院12病院、地域がん診療病院1病院は、指定要件を充足し、がん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の整備が図られることから、指定更新を推薦します。

(1) 都道府県がん診療連携拠点病院

都道府県拠点病院である千葉県がんセンターは、がん専門病院としてがん診療に特化し、骨軟部腫瘍等の小児がんを含め、多くのがん種(2017年院内がん登録:ICD中分類で64種類)に対応し、集学的治療及び緩和ケアを提供しています。

県内全医療圏から患者を受け入れており、特に我が国に多いがん以外のがん等に

ついて、県内広域でがん診療を担っています。さらに専門的又は高度ながん診療について、県内の地域がん診療連携拠点病院から多くの紹介患者を受け入れています。

緩和ケアセンターにおいて緩和ケアを提供するとともに、訪問診療・看護等の地域の医療従事者を支援し、終末期がん患者の在宅療養支援に精力的に取り組んでいます。また、がん治療と緩和ケアが包括的に提供される施設として、欧州臨床腫瘍学会（ESMO）から「統合腫瘍学および緩和ケアのESMO指定センター」として、平成30年10月21日、日本で初めて認定されました。

平成30年4月にがんゲノム医療連携病院に指定され、がんゲノム医療の提供を開始しました。

千葉県がん診療連携協議会を設置し、県内のがん診療連携体制の整備において中心的な役割を担っています。

県内の医療者に対し、化学療法、緩和ケア、がん看護、院内がん登録、相談支援等について研修を行い、がん医療に携わる人材を育成しています。

（2）二次医療圏に複数整備することによる医療機関の役割分担

①千葉医療圏

千葉医療圏は、人口約98万人と県内で3番目に人口が多い圏域です。この圏域には、特定機能病院である千葉大学医学部附属病院と独立行政法人国立病院機構千葉医療センターが地域がん診療連携拠点病院となっています。

（機能的役割分担等）

千葉大学医学部附属病院は、特定機能病院として医師、看護師等の人材養成と県内への人材ネットワークにより、県内のがん診療連携拠点病院と連携しながら、県全体のがん医療の向上に尽力しています。どの分野においても多くの専門家が揃っており、幅広い分野の治療に対応しています。

千葉医療センターは、5大がんを含むがん診療を幅広く行っており、千葉医療ネットワークを構築し、地域連携に取り組んでいます。

○ 千葉大学医学部附属病院（千葉市）

千葉大学医学部附属病院は、大学附属病院、特定機能病院、臨床試験中核病院、がんゲノム医療連携病院として、がん診療の中核的な役割を果たしています。

がん診療の特徴としては、希少がんを含めた全てのがん・組織型に対応可能であり、年間の手術件数2,138件、放射線治療件数745件、がん薬物療法4,292件（いずれも延べ件数）の治療を行っています。

自施設のみで完結するのではなく、近隣主要医療機関とも密接な連携をとっています。また、近隣医療施設より治療困難事例、合併症の多い症例等を多く紹介され、治療しています。

また、臨床試験、治験（企業治験、医師主導治験）、先進医療等を多く行っていることが特徴であり、標準的治療はもちろん、標準的治療が確立されていない場合でも新しい治療を提供できる可能性があります。特に先進医療として又は自由診療としてがんゲノム医療を推進しており、患者それぞれからの組織・血液検体から本人に適した治療を提供（プレシジョン・メディシン）する取組を推し進めています。

さらに、大学附属病院の利点を活かし、人材派遣、教育・トレーニングの機会を近隣医療施設に対して提供しています。医療従事者同士のセミナー・研究会・研修会等多くの教育的プログラムを提供し、医療知識の更新、技能の向上の面でも中心的な役割を果たしています。

○ 独立行政法人国立病院機構千葉医療センター（千葉市）

独立行政法人国立病院機構千葉医療センターは、28診療科を有する総合病院であり、がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、地域災害拠点病院等の指定を受けています。地域医療に貢献すべく、救急患者、紹介患者の受け入れを積極的に行っています。

がん医療の特徴としては、手術、化学療法、放射線治療など、総合的な治療を行い、高度急性期及び急性期機能を発揮しています。がん診療連携拠点病院としての機能の充実を図るため31年1月から緩和ケア病棟の開設を予定しています。

総合病院としての強みを活かし、5大がんを含むがん診療を幅広く行っています。

②東葛南部医療圏

東葛南部医療圏は、人口が約178万人と県内で一番人口が多い圏域です。

この圏域には、船橋市立医療センター、東京歯科大学市川総合病院及び順天堂大学医学部附属浦安病院の3つの地域がん診療連携拠点病院があります。

（機能的役割分担等）

船橋市立医療センターは、膀胱がん、前立腺がんの手術が多く、肝胆膵がん手

術は、高度技能専門医修練施設に指定され高難易度手術を行っています。緩和ケア病棟を設置しており、地域連携を図っています。

東京歯科大学市川総合病院は、口腔がんや口腔ケアにも対応しており、他の拠点病院の地域からも期待されています。

順天堂大学医学部附属浦安病院は、婦人科がん、脳神経、血液のがん等に多く対応しており、AYA世代のがん患者の受け入れも行っています。また、相談支援に積極的に取り組んでいます。

○ 船橋市立医療センター（船橋市）

船橋市立医療センターは、がん診療と救急医療を中心とした高度急性期病院としてDPC特定病院群に選ばれ、東葛南部医療圏の基幹病院となっています。地域医療支援病院に指定されており、地域の多数の医療機関と連携しつつ診療を行っています。また三次救命救急センターを併設し、東葛南部医療圏の救急医療を担っています。

がん医療の特徴としては、乳がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、胃がんの患者数が多く、2017年の治療件数は、いずれも年間160例を超えています。この他、膀胱がん、前立腺がんの手術が多いことが特徴です。肝胆膵がん手術は高度技能専門医修練施設に指定され高難易度手術を行っています。

また、緩和ケア病棟（20床）を有し、治療困難な患者及びその家族に対し、がんに伴う身体的、精神的苦痛等の症状に焦点をあてた治療、ケアを専門的に行っています。院内患者のみならず、近隣の病院からも入院し、在宅緩和ケアのバックアップ病棟として地域連携を図っています。

○ 東京歯科大学市川総合病院（市川市）

東京歯科大学市川総合病院は、地域医療支援病院、地域災害拠点病院として、地域の中核的な役割を果たしている総合病院です。

がん医療の特徴としては、26の診療科があり、多くの専門医が所属していることで、5大がんはもとより幅広いがんに対する手術療法（年間809件）、薬物療法（年間1,017件）、放射線治療（年間のべ286人）に対応しています。特に母体が歯科大学であるため、口腔がんについては、多くの患者の受け入れを行っています。また、周術期の口腔ケアなどを含む歯科医療を提供しています。

○ 順天堂大学医学部附属浦安病院（浦安市）

順天堂大学医学部附属浦安病院は、浦安市を中心とした地域の基幹病院かつ高度な医療を担う大学病院として機能しており、三次救命救急センターや地域災害拠点病院として、ラピッドカーの運用やDMAT等、災害医療体制の整備や医療支援活動に注力しています。また、全県型急性心筋梗塞や脳卒中連携拠点病院、エイズ治療拠点病院、地域周産期母子医療センター、難病医療協力病院等の指定を受け、地域の医療に貢献しています。

がん医療の特徴としては、診断から手術・化学療法・放射線療法、緩和ケアや終末期まで、全てのがんに幅広く対応しています。平成27年に設置したプロダクションセンターでは、AYA世代がん患者に対する妊孕性温存のため、精子、未受精卵、卵巣組織等の凍結を年間約30件行っています。平成28年には強度変調放射線治療装置（IMRT）を導入し、安全かつ精度の高い放射線治療を提供しています。昨年には手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、主に前立腺がんや消化器がんに対して年間約60件行いました。今後、肺がんや婦人科がんへも導入予定です。

当該医療圏におけるがん診療は、脳神経、骨・軟部、血液のがんは約6割、婦人科がんは約5割、また、AYA世代がん患者の約5割を受け入れています。

さらに、就労支援に積極的に取り組んでおり、社会保険労務士とファイナンシャルプランナーによる個別相談会を毎月実施し、就労継続や職場復帰に関することや、障害年金に関する相談に対応しています。多職種の協働によるがん患者サロンを年6回実施し、そのうちの3回は千葉県地域統括相談支援センターとの共催で、「ピア・サポーターズサロンちば」を開催しています。

③東葛北部医療圏

東葛北部医療圏は、人口が約139万人と県内で2番目に人口が多い圏域です。

この圏域には、松戸市立総合医療センターと東京慈恵会医科大学附属柏病院の2つの地域がん診療連携拠点病院があります。

この地域にある、陽子線治療等の高度先進医療を実施する国立がん研究センター東病院との機能連携も進めています。

（機能的役割分担等）

松戸市立総合医療センターは、化学療法内科においては、他病院で治療困難と言われても治療継続を希望する患者の受け入れを行っており、他施設とも連携を

とりながら難治がんの治療にも積極的に取り組んでいます。また、臨床研修医の育成に寄与しています。

東京慈恵会医科大学附属柏病院は、特に卵巣がん、子宮がんの婦人科系のがん治療に成果を上げている病院です。安心して安全な高度医療を提供できる「地域に貢献する大学病院」として、地域の医療機関との紹介・逆紹介を充実させています。

○ 松戸市立総合医療センター（松戸市）

松戸市立総合医療センターは、がん医療・小児医療・救急医療などの急性期医療について質の高い医療を提供しています。

がん医療の特徴としては、平成29年12月に新病院となった際に新たな放射線治療装置を導入し、より質の高い腫瘍治療が望めるようになりました。また、骨転移等の除痛目的の緩和治療も行っています。化学療法内科の外来と併設した20床からなる外来化学療法室を備えており、がん認定看護師等による相談が受けられる個室も併せて整備しています。

緩和ケアについては、同一開設母体の福祉医療センター東松戸病院や近隣の病院の緩和ケア病棟、地域の在宅医療機関へ紹介を行っています。診断や集中的な治療は当病院で行い、在宅医療に移行した後も急変時のフォローは当病院で行うなど、住み慣れた地域でのがん診療の完結が可能となっています。

○ 東京慈恵会医科大学附属柏病院（柏市）

東京慈恵会医科大学附属柏病院は、東葛北部地域難病相談支援センター、救急救命センター、災害拠点病院としての指定を受け、地域の中核医療機関としての役割を担っています。

がん医療の特徴としては、診療科の枠を超えた連携により、がん患者に最適な治療を提供し、患者や家族のライフ・スタイルに即した治療の継続ができる体制を取っています。特に合併症を有するがん患者の受け入れ対応に注力しており、がんを担当する診療科だけでなく、合併症を担当する内科などの医師、その他看護師などの多職種が連携しながら、治療にあたっています。5大がんのみならず、婦人科系や泌尿器科系も多くの患者に対して診療を提供しています。

がんと診断されてからのサポートを強化しており、緩和ケア、がん相談などの早期介入を行っています。平成29年度緩和ケアチーム介入診察回数1,553回、

がん相談件数は1,114件でした。

(3) 地域がん診療病院

地域がん診療病院であるさんむ医療センターは、消化器がんなどの診断・治療を担う一方、圏域内で治療できないがん患者を隣接医療圏の拠点病院へ治療目的で速やかに紹介したり、治療困難となった方の受け入れを、緩和ケア外来を通して行っています。また、圏域内では、胃がん、大腸がん、肺がん等の2次検診の受け入れも積極的に行っています。

同病院では、放射線治療を必要としない胃がん、大腸がんをはじめとする消化器がんの治療については、同病院を中心として圏域内で完結できる体制を整備しています。特に消化器がんの鏡視下手術は盛んであり(29年58症例)、外来化学療法室も3床を配置しています(29年度外来化学療法述べ366回)。

他の医療圏の拠点病院からの緩和ケア患者の受け入れも積極的に行っており、緩和ケア外来を通して緩和ケア病棟への転院、在宅療養の支援を行っています(緩和ケア外来29年度新規患者数218件)。

また、同病院では緩和ケア外来、訪問看護ステーション、緩和ケア病棟を一体的に運営しています。緩和ケア病棟は在宅患者の後方支援を24時間365日行っており訪問看護、訪問診療との連携により地域の緩和ケア対象患者をシームレスに支えてゆくことが可能となっています。

同病院が、すでにグループ指定を受けている総合病院国保旭中央病院に加え、同圏域から比較的アクセスが容易な千葉県がんセンターとのグループ指定を受けることで、地域住民に適切な治療の情報を速やかに提供でき、利便性の高い診療体制の選択が可能となります。

グループとなる千葉県がんセンターへは5大がんのうち、肺がんは集学的治療のすべて、肝がんは放射線治療や化学療法が必要な症例、乳がんは放射線治療を紹介しています。そして、圏域内から紹介したすべてのがん患者で緩和ケアが必要となった患者や、千葉県がんセンターを含む他院で治療困難となり、緩和ケアが必要となった患者を積極的に受け入れています。また現在グループ指定を受けている旭中央病院では、同病院で診断された全てのがん(消化器がんを除く)患者の初期治療からの紹介を行っています。

千葉県がんセンターともグループ指定を受けることにより、連携が一層進むとともに、地域のがん患者により質の高い医療が提供できるものと考えます。

5 がん診療連携拠点病院等の推薦過程

○ 新たな指定要件の充足状況の確認

既指定の14医療機関について、指定更新に向けて現況報告書により書類審査を行い、新たな指定要件を満たしていることを確認しました。

○ 千葉県がん対策審議会における検討

医師・学識経験者等で構成される千葉県がん対策審議会において、新たな指定要件についてのがん診療連携拠点病院等の取組状況を説明し、指定更新及び新規グループ指定についてふさわしい病院であることを確認し推薦を決定しました。

千葉県

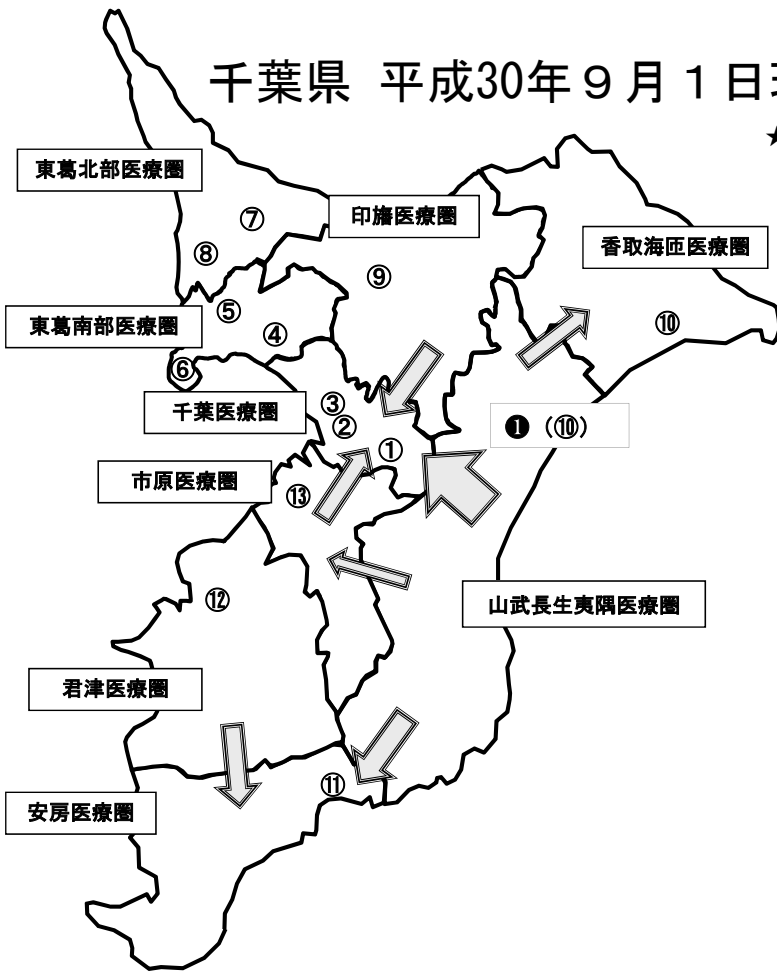
千葉県がんの医療圏の概要

平成30年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
千葉	271.77	977,247	15.6%	3595.9	47	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0
東葛南部	253.91	1,777,383	28.4%	7000.1	61	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0
東葛北部	358.14	1,388,064	22.1%	3875.8	57	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
印旛	691.66	716,195	11.4%	1035.5	30	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
香取海匠	717.47	269,088	4.3%	375.1	21	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
山武長生夷隅	1,161.75	420,642	6.7%	362.1	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
安房	576.53	123,153	2.0%	213.6	16	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
君津	758.22	325,360	5.2%	429.1	19	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
市原	368.17	271,453	4.3%	737.3	13	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
									0							
計	5157.62	6268585	100.0%	17624.294	287	0	13	0	13	0	0	0	0	0	1	0

千葉県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ①千葉県がんセンター★(平成30年4月1日)
- ②千葉大学医学部附属病院(平成27年4月1日)
- ③(独)国立病院機構 千葉医療センター(平成27年4月1日)
- ④船橋市立医療センター(平成27年4月1日)
- ⑤東京歯科大学市川総合病院(平成27年4月1日)
- ⑥(学)順天堂 順天堂大学医学部附属浦安病院(平成28年4月1日)
- ⑦東京慈恵会医科大学附属柏病院(平成27年4月1日)
- ⑧松戸市立総合医療センター(平成27年4月1日)
- ⑨(学)日本医科大学 日本医科大学千葉北総病院(平成27年4月1日)
- ⑩総合病院国保旭中央病院(平成27年4月1日)
- ⑪亀田総合病院(平成27年4月1日)
- ⑫国保直営総合病院 君津中央病院(平成27年4月1日)
- ⑬(独)労働者健康安全機構 千葉労災病院(平成28年4月1日)
- さんむ医療センター(平成28年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
 ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 千葉	★	更新	千葉県がんセンター	(6,223) 6,146	(91.6) 91.8	2,484	(1,928) 1,942	(3,180) 3,104	(634) 683	521	17	2,606
2 千葉		更新	千葉大学病院	(7,517) 5,741	(40.1) 29.5	3,924	(1,760) 2,138	(3,207) 4,292	(706) 745	211	23	11,339
3 千葉		更新	千葉医療センター	(2,721) 2,629	(29.0) 28.3	1,019	(925) 881	(2,083) 2,172	(229) 204	227	15	927
4 東葛南部		更新	船橋医療センター	(3,110) 4,049	(26.2) 33.0	1,832	(997) 1,088	(1,024) 1,149	(302) 329	117	13	1,513
5 東葛南部		更新	市川総合病院	(2,747) 2,609	(20.8) 20.2	1,172	(1,006) 809	(1,642) 1,017	(287) 286	144	10	1,212
6 東葛南部		更新	順天堂浦安病院	(3,678) 4,085	(19.8) 21.1	1,731	(937) 1,001	(1,230) 1,384	(457) 480	803	14	546
7 東葛北部		更新	慈恵大柏病院	(3,926) 4,152	(26.6) 26.8	2,094	(455) 486	(1,763) 2,497	(413) 411	173	15	1,122
8 東葛北部		更新	松戸総合医セ	(1,789) 1,435	(15.1) 12.3	818	(456) 472	(1,067) 1,582	(352) 273	65	5	653
9 印旛		更新	日医北総	(2,353) 2,634	(16.7) 17.8	1,291	(938) 1,113	(1,084) 1,481	(212) 243	248	24	1,834

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...とってください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
10 香取海匝		更新	旭中央病院	(4,473) 4,466	(21.1) 21.2	2,445	(1,531) 1,631	(2,027) 1,791	(558) 613	133	52	3,919
11 安房		更新	亀田総合病院	(5,540) 5,381	(26.2) 25.3	2,504	(2,292) 2,194	(6,111) 4,369	(787) 581	190	84	1,202
12 君津		更新	君津中央病院	(2,875) 3,337	(18.9) 21.7	1,411	(936) 904	(685) 1,161	(246) 299	130	53	1,439
13 市原		更新	千葉労災病院	(1,203) 3,047	(10.8) 27.6	1,429	(788) 828	(2,857) 1,493	(147) 5,130	117	35	2,006

地域がん診療病院の診療実績等

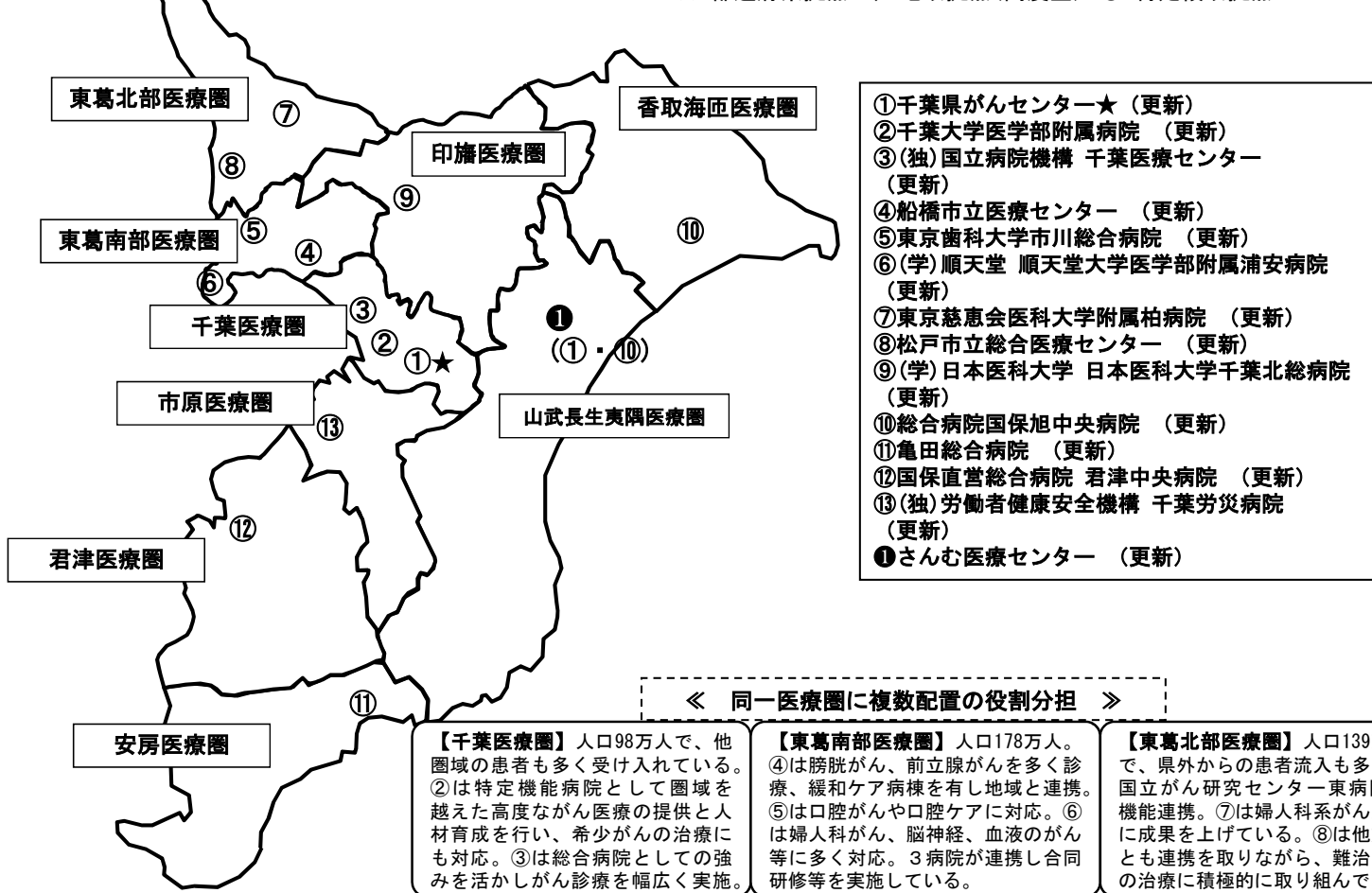
・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
			年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
① 山武長生夷隅	更新	さんむ医療センター	(607) 603	(19.3) 25.5	181	(59) 89	(370) 616	実施なし	6	261

千葉県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点(高度型) ◎：特定領域拠点



今回の指定推薦等に係る千葉県の考え方

1 千葉県のがんの状況

- 昭和57年以来がんは死亡順位の第1位
- 急速に進む人口の高齢化
 ー平成22年から15年間で
 全国第3位のスピードで高齢化ー

今後さらになん患者が増加
 ↓
 がん対策への取組は重要課題

2 がん診療連携拠点病院等の整備

【基本方針】
 県民の誰もが、自らが選択し、安心して納得した質の高いがん医療を、身近な地域で受けられるように整備を進める。

二次医療圏に1か所を基本に、一定人口規模(概ね人口50万人程度)単位に地域がん診療連携拠点病院を整備し機能的役割分担

【現状】・県内9つの二次医療圏のうち、8医療圏に12の地域がん診療連携拠点病院が、1医療圏に地域がん診療病院がある。

【今回】・今後の人口の高齢化予測を踏まえると、現状のがん診療連携拠点病院の確保は必須
 ・さんむ医療センターは、千葉県がんセンターともグループ指定を受けることにより、連携が一層進むとともに、地域のがん患者により質の高い医療が提供できる